

令和 6 年度（2024 年度）第 4 回東海市地域公共交通会議会議録

○会 議 の 名 称 令和 6 年度（2024 年度）第 4 回東海市地域公共交通会議

○開 催 日 時 令和 7 年（2025 年）2 月 13 日（木）

午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分まで

○開 催 場 所 東海市役所 302 会議室（3 階）

○出 席 委 員 稲吉豊治（会長）、齋藤誠（副会長）、嶋田喜昭（議長）、
金森隆浩、高井勇輔、小林裕之、藤田和弘、小島浩資、湯浅一成、
久野兼幸、片桐眞砂子、野崎舞衣子、富田厚子、安田譲、
秋山和子、安藤剛輔、小笠原功、中島淳、宮川高彰、桑山忍、

○欠 席 委 員 天野朝之、伴野誠司、今井聡至、石屋義道

○事 務 局 都市建設部長、都市計画課長、同主幹、同統括主任、同主事

○オブザーバー 株式会社アイシン 3 人

○傍 聴 者 の 数 3 人

○議題及び審議の概要

1. 開会のことば

2. 会長あいさつ

（会 長）

昨年元旦から地震が発生したが、今年は特に何もなく、平和に過ごせると思いきや、1 月 28 日に埼玉県八潮市で下水道課による道路陥没の事故が発生した。事故が発生してから供用して 43 年であった。東海市では、平成 2 年 10 月 1 日に浄化センターが供用開始しているため、34 年経過しており、もうすぐ同様の 43 年を迎えるが、東海市は国の指導に従って定期点検を行い、同様の事故が起きないように対応している。

2 月 8 日には雪が降ったが、らんらんバスについては、関係者のご協力もあり、特に大きな遅れも、事故もなく無事に運行することができた。

本日の会議では、前回同様にらんらんバス、チョイソコとうかいの 1 月末までの利用状況等を報告する。また、チョイソコとうかいについては、会員獲得のための活動実績をご紹介し、3 月には会員、非会員に対してのアンケート調査を行うため、内容についてのご意見を頂戴したい。

3. 報告事項

(1) 令和6年度（2024年度）第3回会議録の確認について

事務局による資料1の説明

(2) 循環バスの利用状況等について

事務局による資料2の説明

（委員）情報提供であるが、最近緑陽小学校の通学路内で自動車の物損事故が発生し、通学路内でも危険な運転をされる方がいると感じた。らんらんバスについても通学路を運行しているため、事故が発生しやすい場所や過去に事故が発生している場所を把握しているのであれば、運転手に情報共有して安全運転を促すと良いのではないか。

（事務局）交通安全の担当が別部局であるため、情報共有を行い、どこが危険性の高い場所なのか確認し、危険性の高い場所をらんらんバスが運行しているのであれば、注意喚起ができるかどうか検討した上で、利用者の安全とバスのダイヤが守られるような運行ができるよう、担当部局と連携を図って対応していきたい。

（副会長）棒グラフを見ると、前年度と比較して減少傾向に見えるが、デマンド交通との関係や利用者数の今後の見通し、利用者を増加させる対策について考えはどうか。

（事務局）ダイヤ改正直後は、他市も同様に減少に転じる傾向にあるが、11月と12月の利用者数を比較すると、例年であれば減少する傾向に対して、今年度は増加傾向にある。今後の見通しとして、前年度の利用者数までは戻る見込みで考えている。また期待として、バスを6台から8台に増やしており、乗車人数として多く乗車できるスペースを確保しているため、バスの乗り方等のPRを行っていき、利用促進に繋げていきたい。デマンド交通については、名和線の運行ルートがデマンド交通と重なるルートであるが、名和線の1月までの利用者数は全体と比較しても減少に転じてないため、影響は少ないと考えている。

（委員）大型店舗だけではなく、小売店舗も行けるルートを検討してほしい。
また、ダイヤ改正で人が少なくなったのは一時的であるが、新たな利用者の獲得として、カーボンニュートラルの活用も検討してはどうか。

（事務局）次期ダイヤ改正の際には、利用者等からの移動ニーズを参考に検討する。

カーボンニュートラルの活用については、東海市の職員についても、1年に2回エコ通勤を実施しており、その際にらんらんバスの活用を周知している。今後も担当部局と連携を図りながら、利用者数を増やすことと、地球温暖化対策を目的に取り組んでいく。

(議長) ゼロカーボンニュートラルのキャンペーンの内容はどのようなものか。

(事務局) 現在、市民に対して実施しているキャンペーンの中では、自家用車ではなく、公共交通機関を積極的に使っているか等の、公共交通に関することを絡めたアンケート内容が含まれている。

(議長) 利用者数については少し伸び悩んでいるが、もう少し経過観察をさせていただきたい。利用者数が回復しないのであれば、調査・分析し、対策を考えてほしい。

4. 協議事項

(1) 令和7年度(2025年度)東海市地域公共交通会議予算案について

(2) 令和7年度(2025年度)東海市地域公共交通会議事業計画案について
事務局による資料3、4を一括で説明

(委員) デマンド交通の実証実験の結果、継続するかどうかの評価基準はどのようにするか。

(事務局) 評価するための目標設定としては、会員登録数、下半期の利用者数、乗合率の3点を評価する。達成状況の具合で、継続するかどうかの決定をしていくが、公共交通会議での各委員の意見も参考にしながら、公共交通会議で協議し、実証実験の延長や本格運行に移行するか等を決めていく。

(議長) 加木屋中ノ池駅の南改札口の開業日はいつ頃か。

(事務局) 令和7年度中には開業予定である。

(議長) ダイヤ改正については、令和7年度中に実施見込みか。

(事務局) 南改札口が令和7年度中に開業し、その後に、南改札口側の駅前広場の整備を予定しており、バス停の設置は駅前広場を予定しているため、令和8年度または令和9年度になると考えている。そのため、令和7年度中にダイヤ・ルート案を検討した上で、令和8年度以降に改正を行う予定で考えている。

<議長による承認採決>

(一 同) 承認

(3) 令和7年度(2025年度)循環バス無料運行の実施について

(議長) 過去の利用実績はどのくらいか。

(事務局) 過去3年の資料として、ダイヤ・ルート再編前の東海秋まつりの1日当たりのバスの平均利用者数は、800人程度であったが、ダイヤ・ルート再編後は、500人程度であった。東海フラワーショウは、ダイヤ・ルート再編前は、600人程度であったが、ダイヤ・ルート再編後は、500人程度であった。

(議長) 利用者が減少した主な理由としては、ダイヤ・ルート再編の影響か。

(事務局) 東海秋まつりについては、今年度の土曜日は雨の影響により利用者が減少したが、日曜日は昨年度と比較して、微減となっている。東海フラワーショウについては、全体と同様にダイヤ・ルート再編の影響を受けたのではないかと考えている。

(委員) 前の週の休日と比較してどうか。

(事務局) 令和6年11月の休日平均は、400人程度であり、無料運行の際の利用者数は500人程度であるため、効果は多少あると考えている。

<議長による承認採決>

(一 同) 承認

(4) デマンド交通「チョイソコとうかい」の実証実験について

(委員) 今後集計データが集まったときに、どの辺りに住む方が利用者として多いのか分析していただきたい。また、市外である大同病院に行ければ、利用者として増加するのではないか。

(事務局) 現状利用されていない町内会が北犬山町内会、長生町内会である。その他の町内会では、ばらつきはあるものの、利用はされている現状である。大同病院への乗り入れについては、地域での説明会等でも、利用者から目的地にしてほしいとの声をいただいているため、検討する必要があると考えるが、市内には公立西知多総合病院もあり、電車で行きやすいように加木屋中ノ池駅を設置しているため、市としての考えを整理していきたい。

(委員) 2月26日、27日にパティオで実施するイベントの申込状況はどうか。

(事務局) 現時点では1件である。会員登録者以外の方でも参加が可能であるため、ぜひ多くの方に参加いただきたい。

(委員) 運行事業者としては、前回からの報告から変わりなく、決済については現金と交通系ICのみであり、二次元バーコードやクレジットの利用はない現状である。タクシーへの影響については、10月、11月については、月平均のタクシーの運行回数が1日あたり4回程度減少していたが、12月は2.2回減少した。1月は0.4回増加している。東海市内での発着は、100となっているため、実証実験エリア以外での需要が満たされていると考えるため、タクシーへの影響は少ないと考えている。今後の計画において、道路運送法第4条での申請を行う際の期間はどのくらい必要であるか。

(委員) 道路運送法第4条での申請の標準的なスケジュールは、2ヶ月間である。

(委員) イベントとしてスタンプラリーにより、高齢者の外出促進を行ってみてはどうか。

(事務局) 参考にさせていただく。

(委員) アンケートの回収率はどのくらいを見込んでいるのか。

(事務局) 市が実施するアンケートでは、3割～4割程度であり、関心が高い内容であれば5割程度になると思われる。

(議長) アンケートの回収は郵送のみか。

(事務局) 郵送またはWEBでの回収を予定している。

(議長) 返信用の封筒の折り目の部分にシール付きのテープを貼り付けて送付すると、回収率が少し上がるデータもあるため、検討してみてはどうか。

(事務局) アイシンと調整の上、検討させていただく。

(委員) 運行事業者において、利用者からの声を把握しているのであれば教えてほしい。また、会員以外へのアンケートの対象はどのようなか

(委員) 8人のタクシー乗務員で行なっており、直接の声は聞けていないが、半田市や常滑市では、実証実験期間中が短く設定されているため、やめてもらっては困るとの意見を聞いている。

(事務局) 国道302号より北にお住いの65歳以上の対象者全員に郵送する。65歳以上の方であれば年齢で特定することが可能であるが、その他の会員条件の対象者では、運転免許証を保有しているかどうかの判別がつか

ないことや妊産婦、未就学児の保護者を特定することが困難なため、アンケートの対象は65歳以上の方のみとしている。

(議長) アンケートはいつ頃実施予定か

(事務局) 3月中旬ごろに発送し、4月末ごろまでに回収する予定である。

<議長による承認採決>

(一同) 承認

5. その他

(委員) 会議に出席するまで、らんらんバスがこれほど便利だとは思わなかった。今の小学生、中学生は自家用車での移動がほとんどであるが、もっとバスが便利だということを認知してもらうために、時刻表等で、子どもにでも分かるような短い標語や絵を多く活用すると、よりわかりやすく、利用したくなるのではないかと思われる。

(事務局) 現状は、小学校に対してはバスの乗り方教室しか実施していないため、来年度以降は文字をできる限り減らして、一目で伝えたいことがわかるように努力していきたい。

(委員) 先日らんらんバスを利用した際に、車いすの利用者と遭遇した。運転手が乗降の際に、車いすの利用者に親身になって援助している場面を見て、運転手に対して感銘を受けた。車いす本体をバスに固定する必要があり、時間をかけながらも一生懸命対応されている様子を見て、知多乗合株式会社として、運転手に対してどのような教育をしているのか教えてほしい。

(委員) 車いすだけではなく、非常口の訓練等は、乗務する初日に立会う可能性があるため、見習い乗務員になる前に必ず実施している。利用者には、安全に乗車していただくことが最優先であるため、利用者に対して「慌てなくて結構です。おかけになってください。」と声をかけ、利用者が座ったのを確認してから出発するように徹底している。また、車いすの利用者も一般の利用者と変わりなく、事前に連絡をいただかなくても、バス停で待機いただければ結構である。

(議長) 車いすの種類によってバスに固定できないものはあるか。

(委員) 電動車椅子も含めて、基本的には可能であるが、外国製のスポーツタ

イブになると一部対応していないものがあると思われる。

(委 員) 東海市芸術劇場の利用者の中で、土日は多くの中高生が勉強スペースを活用しているため、学生にもっとらんらんバスを利用してもらえように、PRをするのも良いと思う。例えば、東海市芸術劇場入口の自動ドア等に1乗車100円であることの張り紙を掲示し、周知を行うことでらんらんバスの利用者が増加するのではないかと思う。

(事務局) 参考にさせていただく。

(委 員) チョイソコとうかいについて名和地区だけではなく、富木島地区でも高齢化が進んでいるため、実施を検討していく予定はあるか。

(事務局) 現時点では、他の地区での検討までは考えていない。名和地区では、らんらんバスが運行できない箇所があるため、デマンド交通を導入することで、移動の不便さが解消されるかの実証実験を行っている。今回の実証実験の結果を踏まえ、各地域においても、どのような公共交通が合うか考え、市内全体で利便性の高い交通体系を考えていきたい。

(委 員) 市外から来訪された方にでも分かるように、各主要施設や観光地等への交通アクセスとして、らんらんバスをPRしてはどうか。

(事務局) 太田川駅前のバス停周辺に設置してある掲示板には、各主要施設や公園、アピタ荒尾店前までの所要時間が記載されているものを掲示しているが、ホームページには各公共施設までのらんらんバスでのアクセスは記載がない施設もあるため、担当部局とも連携を図りながら、随時掲載させていただく。

(委 員) 情報提供になるが、知多乗合株式会社の路線バス（上野台線、横須賀線）において、今までは定期券を紙で発行していたが、2月から太田川駅の改札口周辺の券売機で、路線バスのICカードを用いた定期券の購入ができるようになった。

6. 閉会のことば